小杉放菴記念日光美術館

〒321-1431 日光市山内2388-3　TEL：50-1200
ホームページ　http://www.khmoan.jp/

KOSUGI HOAN MUSEUM OF ART, NIKKO

市民割引券

（1枚につき、5名様まで有効）
小杉放菴記念日光美術館

切り取ってご利用ください

特別企画・ギャラリートーク「大山魯牛の画業について」

栃木の南画Ⅱ　足利市立美術館コレクションによる大山魯牛展の開催に併せて、足利ゆかりの南画家・大山魯牛（1902～1995年）の作品を鑑賞しながら、その画業について話すギャラリートークを行います。

小杉放菴と交流があり、南画の精神を現代に伝える画家として評価されている魯牛の魅力を知ることができる貴重な機会です。ぜひ、ご参加ください。

大山魯牛「曳杖」
1929（昭和4）年
足利市立美術館所蔵

と　　き：11月27日（土）　午後2時～3時
講　　師：江尻潔氏（足利市立美術館学芸員）
参 加 料：入館料のみで参加できます。
参加方法：当日午後1時50分までに、美術館受付前にお集まりください。

❖展覧会「栃木の南画Ⅱ　足利市立美術館コレクションによる大山魯牛」
会　　期：10月23日（土）～12月12日（日）※会期中は無休
開館時間：午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）
入 館 料：一般…700（300）円、大学・高校生…500（200）円、小中学生…無料　※（　）内は市民割引券を利用した際の料金です。

KOSUGI HOAN MUSEUM OF ART, NIKKO
小杉放菴記念日光美術館

歴史民俗資料館通信

日光市中央町29-1（今市図書館隣）☎(22)6217
開館時間　午前9時～午後6時（入館無料）
休館日　毎週月曜日、祝日

◇企画展示資料紹介①
播種板

播種板は、鹿沼市板荷に残されていた朝鮮種人参の栽培にかかわる道具で、これを地面に押しつけてできたくぼみに種をまきました。この道具を用いることにより、等間隔かつ均等な深さで種をまくことができます。

江戸幕府の直接の管理下にあった朝鮮種人参の栽培は、御定法といわれる規則があり、栽培者の相続や、栽培の方法などについて細かく定められていました。

さらにこの規則には、一定の面積にまき付ける種の数までも定められており、播種板は御定法の細かい決まりを示す貴重な資料といえます。

播種板

◇常設展示資料紹介④
尖頭器

尖頭器とは、やり先に付けて用いられたと考えられている石器のことで、本資料は小林地内で出土したものです。上半分が欠けていますが、もともとはヤナギの葉のような形をしていたもので、旧石器時代から縄文時代への移行期に位置付けられる日光市で最古の遺物です。

尖頭器は東北地方の最上川流域などに多く産出する珪質頁岩と呼ばれる石材で作られており、当時から東北地方との交流があったことがうかがわれます。

尖頭器

❖催し❖

◆企画展「朝鮮種人参」
12月28日（火）まで

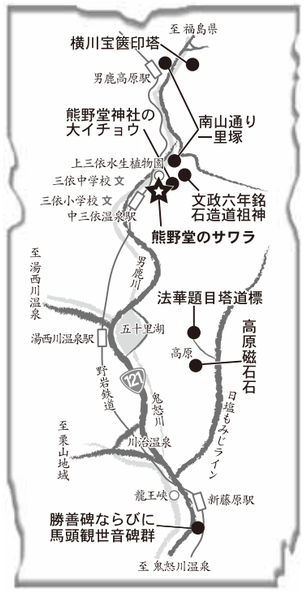
日光市の文化財㊶

熊野堂のサワラ

【種別】天然記念物
【所在】日光市上三依
昭和54年10月1日旧藤原町指定

今回ご紹介する熊野堂のサワラは上三依水生植物園の敷地内にあり、前回の熊野堂神社の大イチョウの近くにあります。野生のものか、植えられたものなのかは不明ですが、推定樹齢約二六〇年、樹高が約三三メートルあり、サワラとしてはまれに見る大樹であり貴重です。もともとは地上六メートル付近で二またに分かれた樹木でしたが、平成一九年の台風により分かれている一方が折れてしまったため現在は片方のみとなっています。折れた幹の折れ口は切りそろえられ腐食防止などの処置が施されています。

今回のサワラは、「おコウサワラ」という通称で呼ばれ、地域にとって特別な木であることがうかがえます。また、とちぎの名木百選にも選ばれており、日光市指定の貴重な天然記念物の一つです。熊野堂のサワラのほか上三依周辺には数多くの文化財が点在していますので、上三依へお越しの際には、併せてご覧ください。



市民文芸

川柳　選者　山本都留米

子供より大人が夢中つかみどり　植田義雄
値上げ前買い貯めタバコ山と積み　酒井喜麿
分別のゴミ見て曜日判断し　白土武夫
宿題を親に押しつけ子はアキバ　渡辺春男
夏の恋線香花火のように消え　石川みかん
いくつもの覚悟おさめて今の年　櫻沢あき子
のし袋うっかり空で赤っ恥　篠原芳子

俳句　選者　伊藤　清

蕎麦を打つ腕のたしかさ風爽か　福田美代子
朝露に艶めく栗を手の平に　渡辺ミチ子
呆けまじと気負う媼に蝉時雨　徳本英子
秘境とは山湖の蒼く澄むばかり　上山淑子
点滴に利き腕とられ三尺寝　白土武夫
空の青白極まりし蕎麦の花　鈴木キヌ子
耳すまし水琴窟の虫時雨　松本武久

短歌　選者　阿久津仲一

自販機より冷たき飲み物取り出し頬にあてつつ車に乗る人　大出喜代
重ねゆく齢憂えず歩を緩め天仰ぎつつ愉快に生きん　関根眞佐子
朱に映ゆる三仏堂を仰ぎつつ高くさやかな皷の音に酔う（輪王寺薪能）　高野恒子
歴代の糧を生みだす大地あり夫亡きあともしかと継ぎたり　福田きくい
愛しむ桔梗撫子おみなえし帰る御魂を待ちつつ活くる　北崎　君
結婚のことには触れず三十歳迎へし娘の誕生日祝ふ　白土武夫
わくわくとSLに乗りたる真岡線汽笛の音が耳を離れず　櫻澤総一

作品を募集しています！

川柳・俳句・短歌を募集しています。氏名（ふりがな）、住所、電話番号を明記して、ご応募ください。
応募先及びくわしくは
秘書広報課　広報広聴係
☎(21)5135・FAX(21)5109